

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社 メデカ ジャパン		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風 GHなごみ		
所在地	〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)アミュレット
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7F
訪問調査日	平成23年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事の際には、近隣住人や小中学校の生徒さんにも参加して頂いたり、民生委員や自治会等の連携を充実させ、地域資源を十分に活用し、地域に根差した運営を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

なごみユニットの理念として「共に支え愛、どんな時も笑顔を保ち愛情あふれる」を掲げ、職員間で共有し、理念の実現に向け取り組んでいる。今年度は、地域との交流に力を入れて取り組み、ホーム主催の餅つき大会を開催し、地域住民や子どもたちも多く参加され、利用者も多くの方々と交流できる機会が確保された。日々の支援においても、利用者の要望に応じ、個別に外出できるよう支援する等、個別ケアにも力を入れて取り組んでいる。また、併設施設の看護師による研修の実施を通じ、職員のスキル向上にも前向きに取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットミーティングで理念を決め、それに基づいてケアが出来るよう努めている。又朝礼後は皆で事業所理念を唱和している。	なごみユニットの理念として「共に支え愛、どんな時も笑顔を絶やさず愛情あふれる」を掲げている。また、会社の理念(そよ風憲章)、今期のスローガンを事務所に掲示し、理念に関しては、毎朝の申し送り時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に行き、地域の方々と交流を図ると共に行事への参加の声掛けをしている。	地域との交流では、ホームで開催した餅つき大会に地域の方をお誘いし、利用者との交流が図られたほか、日常的にも、ホーム周辺の散歩や買い物の際に地域の方と交流が図れるよう取り組んでいる。	今後に向けては、日々の散歩等において近所の方と交流がより充実していく事や地域資源等も有効に活用し、地域とのネットワークがより一層広まっていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験の受入や近隣住人に認知症への理解を深めて頂くため、行事や施設案内会等を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故報告を行い、参加者の方々からのご意見を拝聴し、頂いた意見について職員で話し合いサービス向上に努めている。	運営推進会議には、介護相談員、民生委員、家族の方が参加され、ホームの運営状況のほか利用者の様子を伝え、参加者との意見交換を通じ、サービス向上につなげられるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員、民生委員の方々に運営推進会議や行事への参加をお願いしている。	市の担当者との連携に関しては、定期的に入居状況等を報告し、必要に応じて連携が図れる体制を築いている。また、2カ月に一度介護相談員の来所もあり、相談員とも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族への説明とご同意の上で、夜間帯のみ身体拘束を行っているが、月/1回ミーティングを開催し身体拘束廃止に向け、現状を振り返り、代替策を話し合い模索している。	身体拘束廃止に向け、ホーム内において「身体拘束廃止研修」を実施し、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる行為は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター内で勉強会を行い、報告書を提出してもらい、支援内容の見直しを行い、防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣ユニットに成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる為、資料を閲覧し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様が納得して頂ける様な細かい説明を行わせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、御家族様に意見を伺い、日々の面会時にも御声掛けさせて頂いている。 又、月に1度介護相談員に来所して頂いている。	ホーム内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時家族に伝えている。家族からの意見や要望は、面会時のほか、運営推進会議時等に収集し、サービス内容に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや施設全体の会議を定期的に行っている。また個別で面談の場を設け、職員の率直な意見や悩み等を運営に活かしている。	職員からの意見の収集については、事業所センター長を交えての面談の実施のほか、ユニットミーティングにおける意見収集、また、日常的にも管理者から職員に声をかけるなど、職員の不安等が早期に解決できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員との面談を実施し、現在の評価と課題を本人と話し合い又、現在の不安や不満を吸い上げる機会を設けている。雇用期間の更新時には実績により給与のベースアップを図り、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはベテラン職員がフォローに付き当施設独自のプログラムにより、無理なく業務の修得に努め、分からない点はその場で解決する仕組みで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他施設の管理者などと情報を共有する機会を月/1回で設けているが、社外の勉強会や研修は現状不足しており、個々人の取り組みに一任している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家庭訪問を行い、御本人の話を十分に伺い、実際にセンターを見学して頂く等している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センターを見学して頂き、現在の状況を詳しく伺い事業所としてどのような対応が行えるか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の把握に努め、必要に応じて他サービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えていただく場面を多く持ち、人の役に立っているという実感を得て頂き、共に支え合える環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告と題し、生活状況をお伝えし、行事などに家族を招待し参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所して下さった際には何時でもお立ち寄り頂けるよう、声を掛けさせて頂いている。	馴染みの人や場との関係継続の支援に向けて、友人の面会等を通じ、交友関係の継続に努め、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日によって状態も異なる為、その時の状況に応じ職員が間に入り対応している。又、個別に話を聞く時間を作ったり、隣ユニットの利用者様との交流の場も設けている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在退去された方との連絡は取れていない。今後は必要に応じて相談、支援に努めて参ります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時におけるアセスメントにおいて、本人の要望のほか、日常生活動作状況等の確認、現状の課題やニーズを抽出し、利用者一人ひとりの支援方法を明確にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人、家族から情報をいただき、入居後も本人、家族との会話で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態を把握し、出来る事を行って頂き、その日の状態に合わせての対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があればミーティングで話し合い計画に反映させている。今後は必要に応じて家族の方にも参加して頂けるようにしていきたい。	ケアプラン作成においては、アセスメントにおいて利用者のニーズや課題を抽出し、ケアプランに反映している。また、ケアプランに沿った支援を図るために「介護援助計画表」を作成し、日々の支援がケアプランに即した形で提供できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に記入し、情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援を行っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパー銭湯に行ったり、美容院を利用したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により往診を受けられる方、又は御家族様対応にてかかりつけ医に受診している方もいる。その際には生活状況をお持ち頂いたり、必要に応じて家族と共に同行し、状態の変化を報告している。	利用者が適切な医療を受けられるように、月2回、提携先医療機関による往診が受けられる体制がある。また、利用前に雇っていたかかりつけ医へ継続して利用する事も可能であり、利用者、家族の要望に応じ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼時、又は特変時にはセンター看護師に報告、助言を受けている。その後も経過報告し、その都度適切なアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、出来る限りお見舞いに行き、退院前には退院後のケアについてDrより御家族様と管理者が話を聞き、退院後も安心して暮らして頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来る事を説明させて頂き、往診Drと連携し対応している事を説明する。又、社内研修等でターミナルケアについての知識と理解を深めている。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、ホームとしてできる事を家族に早い段階で説明すると共に、運営推進会議の中でも、取り組み状況を報告している。また、重度化や終末期を迎えた際には、家族、かかりつけ医、職員が連携を図り対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会を開催し緊急時の対応等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。又、地域の方々々に有事の際に協力を仰げるように、行事やセンター内見学会などを開催した。	消防訓練は年2回定期的に実施している。訓練では消防署の立会いの下、消火、通報訓練のほか、夜間を想定した訓練が実施もされている。近隣の協力体制の確保に関しては、自治会長と交流を図り、災害時における協力を努めている。	広域の避難場所についても全職員間に周知し、共通理解が図れるよう取り組まれることに期待したい。

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行う様、職員全員で気をつけ対応している。	利用者のプライバシーの確保に向け、ホーム内において、プライバシー保護の研修を実施するほか、日々の支援の中でも、利用者に対する声かけに不適切な発言等が生じない様に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御茶の時間、利用者様にメニューを見て頂き、御自身で飲みたい物を決めて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に合わせ、買い物へ出掛けたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にはよそ行きに着替えおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。又、食後、食べこぼし等で衣類を汚してしまった時には、さりげなくお声掛けさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲で調理や片付けを手伝って頂き、職員は利用者様と一緒にテーブルを囲んで楽しく食事が取れるようにしている。	食事に関する一連の作業では、利用者の状態を考慮し、調理や配膳、食材の検品作業等、利用者と一緒に取り組めるよう支援している。また、行事の際にはイベント食を実施する等、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みや噛む力がない方には食べ易いように刻んで提供したり、食事が進まない方には形を変えて提供するなどしている。毎食の食事量、水分量は一人一人チェックしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。義歯の方は就寝前洗浄剤を使用している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄チェック表を記録し、尿意のない方にも時間を見計らって誘導をさせて頂いている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては「排泄表」に記録をし、排泄パターンや状況を把握している。また、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について、ミーティング時に勉強会を行った。又、朝の動きを良くするために、毎朝ヨーグルトや野菜ジュース、乳酸飲料を飲んで頂いて、排便に関し、なるべく薬に頼らない様心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴して頂けるよう、声掛けさせて頂いている。また、季節に応じた、入浴剤等で楽しんで頂けるよう支援している。	入浴については、利用者の要望に応じていつでも入浴できる体制を築き、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は、職員が介助に入り安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じて、日中1時間位の休憩の時間を取り入れるようにしている。又、足浴を行い安眠できるよう支援する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表を作成しており、用法、用量、効能を記入し、全職員が把握出来るようにしている。又薬が変わった時には日々の状態を細かく記すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園の場を作り、利用者様に教えて頂きながら野菜作りを行っている。又、水やりを御自分の仕事にし毎日行って下さる様になった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	消耗品が無くなった時などには、個別対応にて買い物へお連れしたり、又、近所の理美容店にもご協力頂き、理髪に出かけている。	各ユニットにおいて、年間行事計画を策定し、定期的に外出できる機会を確保している。行事での外出以外においても、個別外出として、昼食や甘味を楽しめるよう支援している。また家族の協力も得て、外出や外泊なども行っている。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時などには、その方に応じて支払いをして頂く様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いを家族に出して頂くなどしている。又、本人の希望により家族への電話も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度には十分に配慮し、季節に応じた飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	ホーム内はバリアフリー設計であると共に、廊下やトイレ、浴室など転倒の危険となるものは放置せず、安全面に配慮している。共用スペースには、利用者で作成したカレンダーの掲示や居室前には、利用者の写真の掲示など、掲示物にも工夫が図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには皆様がくつろげる様、ソファを置き、又気の合った方々で将棋等楽しめる様、テーブルの配置にも工夫をさせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具をお持ち頂き、安心して生活出来るようにしている。又仏壇を持ち込まれている方もいらっしゃる。	居室においては、自宅で使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く暮らせるよう配慮している。また、家具類の配置等も家族や本人の要望に沿って対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内等に手すりをつけ、安全で自立した生活が送れるよう支援している。又居室入口には顔写真を飾り、わかりやすいよう工夫している。		